



5月の園だより

社会福祉法人 であいの里 さやま保育園

2025年5月1日発行

＊ ＊ 保育目標 讃嘆 一たたえますー

- ・ 降誕会には、みほとけさまにお参りし、ほとけさまのお話を聴く。
- ・ 春の自然にふれて、友だちや保育士と関わりながら、遊びを楽しむ。



今月の行事予定

- 12・26日 礼拝(4・5歳児) 15日 避難訓練
発育測定(13日/あひる・ひよこ、14日/どう・きりん、15日/うさぎ・いす)
- 16日^{ごうたんえ}降誕会お寺参り(ほし) 20日 クッキー作り
21日 誕生会 26日 口座引落 4・5月分)
28日 さつまいもつるさし(どう・きりん)
30日 えんぞく参観日(どうきりん親子)



【法話】

ごうたんえ
降 誕 会

新年度が始まり、ひと月。肌寒さの残る朝晩もありましたが、ようやく昼間は、汗ばむ季節となりました。

浄土真宗の宗祖親鸞聖人は、承安3年(1173年)5月21日、京都の東南、日野の里で生まれられ、

幼くして両親と別れ、9歳で出家得度し、それから20年間、比叡山で血のにじむ修行をされました。し

かし29歳の時、山を捨て法然上人の門に入られま

した。自力の世界から他力(仏力)の世界への転入です。いつも闇の中で生きている者は、それが闇であることがわかりません。闇が闇と気付かされ、闇が破られていくのは、光のはたらきです。私の心の闇を晴らしてくれるその光は、他力(仏力)・お念仏の教えであると教え示して下さいました。

親鸞さまのお誕生日、5月21日を「降誕会」といいます。保育園では毎月21日にその月の子どもたちの誕生会をしています。今年は5月に降誕会お寺まい

りをします。また、月曜日に礼拝を行います。「しんらんさまについて」、「ほとけさまについて」、「わたしについて」いろいろなお話しをしますので、ご家庭でも尋ねてみてくださいね。

今年は親鸞聖人が、浄土真宗の教えを私たちに伝えて下さって、800年目になります。

合 掌

『やりたいやってみたいを積み木で表現』

今年も、広島のわくわく創造アトリエの中木先生にたくさんの積み木を持って保育園に来ていただき、ほしぐみ(5歳児)が積み木遊びの体験をしました。

「積み木は息をされていて膨らんだり萎んだりして生きていますよ。積み木の上に乗ったり、乱暴に扱ったりせず、大切に遊ぼうね。」と約束をして始めました。そして、『立方体』と『直方体』の積み木の名前や、「積み木の切り口を上にとすると崩れにくいよ。」「直方体二つ重ねたら立方体と繋がるね。(同じ高さになること)」いろいろな形の積み木も積んでいくと繋がっていくことを、目で見て教えてもらいました。

「立方体で自分の背の高さまで積み上げてみよう」を簡単に積み上げたほしぐみ。もっと高く、もっと高く。そして崩れないように、ツインタワーにしたり、基礎を作り始めたり、直方体を繋げて支えたり、箱で囲ってみたり……子ども達の想像力と『やりたいやってみたい』がどんどん膨らんで、お城になったりビルや公園そして地獄など、うさぎの椅子に変身したり、友だちとも繋がって映画館と駐車場があるショッピングセンターになったり、友だちと物語を作りながらお家遊びになったり、旅行で行ったホテルを黙々と再現したり、一人ひとりが自分の思いを積み木にこめて遊び込んだ1時間でした。

中木先生は、積み木で遊ぶことを、「指先で考えて、頭に記憶させる。」と表現されました。考えて遊ぶのではなく、指先が形や大きさやバランスを認識しながら繋がっていく心地よさが記憶されていき、遊びながら数量や形態に対する学びをも深めていくと仰いました。そして、ほし組の子ども達が、しっかり自分の思いを持っていて、心が解放され自由に作れる環境があることを、褒めてくださいました。

積み木のかたちをつなげて楽しく遊ぶこと。友だちとの心もつなぎ、それはまた、いのちをつなげていくことにもつながります。木の香りと、光と影の中、

「みんなちがってみんないい、みんなちがうからつながっていく」を感じました。

